

STAGE+を楽しむ(88)(HP 収載)
—シュトゥッツマンと紗良・オット—

1. 始めに

前報(87)に引き続き、STAGE+のシュトゥッツマンと紗良・オットの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、シュトゥッツマンと紗良・オットの演奏を選びました。

シュトゥッツマンと紗良・オットがベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番で共演
ロンドン交響楽団

収録日: 2022年11月10日

コントラルト歌手と指揮者のキャリアで圧倒的な存在感を放つナタリー・シュトゥッツマン。楽曲の深い読み込みと敬愛から生まれる指揮は、生き生きとした輝きを生み出しています。歌と同様に指揮においても幅広いレパートリーを有する彼女が今回指揮するのはベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番です。ソリストには近年ますます深みを帯びた音楽を聴かせてくれるアリス＝紗良・オット。みずみずしい輝き、凜とした佇まいを感じさせつつ、徐々に熱を帯びて最後には圧倒的なスケールの大きさに魅せてくれる共演は注目です。

ソリスト:

アリス＝紗良・オット (ピアノ)

演奏:

ロンドン交響楽団

指揮:

Nathalie Stutzmann

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ピアノ協奏曲第3番ハ短調 op. 37

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 《エリーゼのために》 WoO 59



3. 試聴の経過

今回から LAN アクキュライザーをスイッチングハブから PC への LAN ケーブルに装着して聴いていきます。

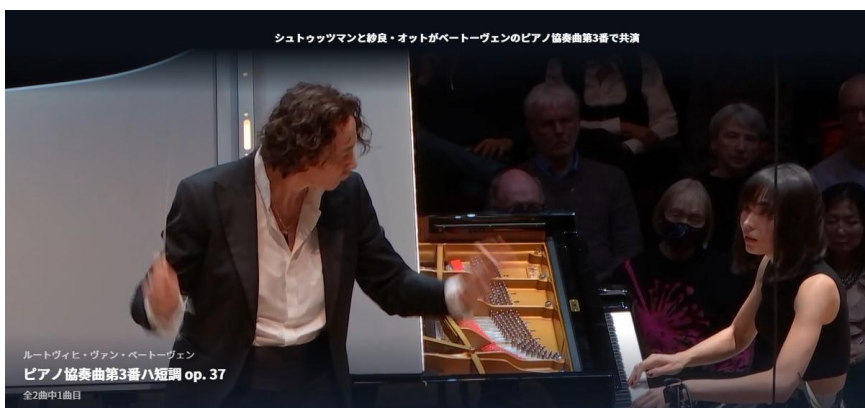
ナタリー・シュトゥッツマンは歌手としての演奏は、ベルリンフィルとの共演などで聴いていますが、指揮者としての演奏は初めてです。

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番はお馴染みの曲で、美しい旋律がちぢめられています。

この曲をアリス=紗良・オットは、女性演奏家らしい繊細できめ細かく表現していきますが、時としてシャープなタッチも見せてくれています。

シュトゥッツ指揮のロンドン交響楽団は、柔らかい響きを聴かせてくれます。

《エリーゼのために》はアンコール曲です。



4. まとめ

今回から LAN アキュライザーが加わったことにより、アリス=紗良・オットの繊細で美しいピアノ演奏が聴けました。

以上